

# 営農技術情報

一畑作（初冬まき小麦②）一

令和2年 6月 4日発行

上川農業改良普及センター名寄支所 TEL01654-2-4524

JA道北なよろ TEL01655-3-2521

JA道北なよろ営農センター TEL01654-3-4307

～うどんこ病が発生しています！～

## 1 生育経過

幼穂形成期は平年より6日早く迎えましたが、5月中旬の低温により生育は鈍化し、現在は平年並～2日程度遅く推移しています。茎数が多く、倒伏が懸念されます。

〈生育状況(6月1日現在)〉

	幼穂形成期	止葉期	出穂始	草丈 (cm)	葉数 (枚)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )
<b>本年</b>	<b>5/13</b>			<b>46.2</b>	<b>7.6</b>	<b>1,648</b>
平年	5/19	6/2	6/10	41.9	-	630
遅速	早6日			+4.3	-	+1,018

## 2 追肥

生育後半の追肥は遅れ穂の発生や、茎数が多い場合は倒伏を助長します。追肥を行う場合は、6月上旬までに実施するようにしましょう。

## 3 倒伏軽減対策

ほ場の生育状況を確認し、茎数の多いほ場では植物成長調整剤を使用しましょう。

### 【植物成長調整剤の使用手法】

資材名	使用時期	10a 使用量	10a 散布水量	使用回数
エスレル10	止葉期～出穂始期	200～333ml	100リットル	1回
	出穂始期	100～333ml		

※「出穂始期」とは、初めて出穂を見た日から20%出穂まで。

※「出穂」とは、穂先が止葉の葉鞘から抽出した状態。

## 4 うどんこ病・赤さび病の防除(防除時期: 止葉抽出期～穂ばらみ期)

低温で経過したことや茎葉が繁茂していることから、うどんこ病が発生しています。

赤かび病の防除開始(6月中旬)まではまだ期間がありますので、すでに発生が見られるほ場では防除を行いましょう。

### 【うどんこ病・赤さび病の防除農薬例】

薬剤名	使用倍率	使用基準	
		時期	回数
チルト乳剤25	2000倍	収穫3日前まで	3回以内

◎ 農薬は使用基準を守り、農薬飛散に注意しましょう ◎